

第 36 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会抄録

演題分類：14 がん領域

演者：○濱谷安希子、逸見 結衣、渡邊小百合、塚本早百合、伊勢原祐子、藤原 正幸
小田中みのり、柴田 直子、中晴 徹、大前 隆広、川高 菜緒、大谷 祐子
見上 千昭、吉田 直恵、奥川 斉

演題名：ボルテゾミブの投与経路の違いによる末梢神経障害発現頻度の調査

【目的】

ボルテゾミブ（商品名：ベルケイド®）は 2006 年 12 月薬価収載された多発性骨髄腫の治療薬である。従来は静脈投与（IV）のみであったが、IV と皮下投与（SC）を比較した第Ⅲ相臨床試験にて、末梢神経障害の発生頻度及び Grade が、IV 群よりも SC 群で有意に低いことが示され、2012 年 12 月 SC による新投与経路が追加承認された。当センターでは現在、全ての患者で SC が行われている。今回、当センターにおける投与経路の変更による末梢神経障害の発現状況を把握し、薬剤管理指導に繋げるため、IV 群と SC 群における、末梢神経障害の発現状況について調査を行ったので報告する。

【方法】

2012 年 1 月～2013 年 1 月に当センターでボルテゾミブを IV で開始した患者 14 名（男性 7 名、女性 7 名、平均年齢 67.1 歳（37-84））と、2013 年 1 月～2014 年 3 月に SC で開始した患者 14 名（男性 5 名、女性 9 名、平均年齢 66.6 歳（39-82））を対象とし、末梢神経障害の発現状況をカルテ調査した。Grade は CTCAEv4.0 に基づいて評価した。

【結果】

発現が認められたのは IV 群対象患者では 14 例中 9 例（64%）、SC 群対象患者では 14 例中 5 例（36%）であった。IV 群では、G1：7 例、G2：2 例、発現時期は 1 コース目 4 例、2 コース目 2 例、3 コース目 1 例、4 コース目 1 例、5 コース目 2 例であった（投与期間中央値：3 コース）。一方 SC 群では、G1：2 例、G2：3 例、発現時期は 3 コース目 2 例、5 コース目 3 例であった（投与期間中央値：4 コース）。なお、両群において末梢神経障害により投与継続不可となった例は認められなかった。

【考察】

多発性骨髄腫は治癒困難な疾患であり、QOL を保ちながら治療を継続することが重要である。今回の調査結果では、IV と比較し SC での末梢神経障害の発現頻度は低くなる傾向が認められた。今回の結果を踏まえ、薬剤管理指導において情報提供を行い、また末梢神経障害の発現は用量依存的であるとの報告があるため、早期発見、減量・休薬の提案に積極的に関わっていききたい。